

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	こぼんはうすさくら 浜松恩地教室			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	『 <b>こども一人ひとりに寄り添った丁寧な関わり</b> 』 職員がこどもの特性や気持ちに配慮し、安心感を大切に した丁寧な関わりを行っている点が強みであると考えていま す。	来所時や活動前後に、こどもの表情や行動、体調の変化を確 認し、その日の状態に応じた声かけや関わりを行っていま す。 また、うまく気持ちを言葉で表現できないこどもに対して は、選択肢を示したり、気持ちを代弁するなど、安心して過 ごせるよう配慮しています。	こどもの理解や特性について職員間で共有する機会を増や し、関わり方や声かけの工夫を統一できるよう取り組んで いきます。 また、支援の振り返りを行い、よりこどもに合った関わり ができるよう検討していきます。
2	『 <b>安心して過ごせる環境づくりと安全への配慮</b> 』 活動内容に応じた環境構成や見守り体制を整え、こどもが 落ち着いて過ごせるよう安全面に配慮した支援が行われてい ます。	活動ごとに使用するスペースを分け、視覚的に分かりやすい 配置を心がけています。 危険が想定される場面では、職員が近くで見守るなど、こど もの特性や活動内容に応じた位置取りを意識し、安全に配慮 した支援を行っています。	活動内容やこどもの成長に応じて、環境構成や動線の見直 しを行い、より分かりやすく安全な環境となるよう改善し ていきます。 あわせて、危険が想定される場面について職員間で確認 し、安全意識の共有を行っています。
3	『 <b>保護者との連携を重視した支援体制</b> 』 送迎時や連絡帳、面談等を通じて保護者との情報共有を行 い、家庭と連携した支援を行っている点も強みの一つです。	連絡帳には、その日の活動内容だけでなく、こどもの様子や 小さな変化についても記載するよう心がけています。 また、送迎時や面談の機会を活用し、家庭での様子を伺い ながら、必要に応じて支援の方向性を共有しています。	保護者が支援内容をより具体的に理解できるよう、連絡帳 や面談時の説明方法を工夫していきます。 また、相談しやすい雰囲気づくりを大切にし、保護者との 情報共有の機会を充実させていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	『 <b>支援内容や専門性についての情報発信が十分でない点</b> 』 送迎時や連絡帳、面談等を通じて保護者との情報共有を行 い、家庭と連携した支援を行っている点も強みの一つです。	日々の支援を優先する中で、支援の目的や専門的な視点を整 理し、分かりやすく保護者へ伝える機会や時間が限られてい ることが要因の一つであると考えています。	『 <b>支援内容や専門性についての情報発信の充実</b> 』 支援の目的や内容について、連絡帳や面談時に補足説明を行うな ど、保護者に分かりやすく伝える工夫が必要であると考えていま す。 また、支援内容を整理し、保護者が理解しやすい形で共有できる方 法を検討していきます。
2	『 <b>保護者同士が交流する機会が限られている点</b> 』 送迎形態等の影響もあり、保護者同士が交流できる機会が 少なく、つながりを持ちにくい状況があると感じています。	送迎利用が中心であることや、利用時間帯が異なることか ら、保護者同士が顔を合わせる機会が少なく、交流の場を設 けにくい状況が要因であると考えています。	『 <b>保護者同士の交流機会の創出</b> 』 保護者会や情報交換の場について、開催方法や頻度を検討し、無 理のない形で交流の機会を設ける工夫が必要であると考えていま す。
3	『 <b>家族支援・きょうだい支援の取組が限定的である点</b> 』 家族全体やきょうだいに対する支援については、十分に取 り組めていない部分があり、今後の検討が必要であると考え ています。	日常の療育支援を中心とした運営となっていることから、家 族全体やきょうだいに焦点を当てた取組について、十分に検 討・実施する余地があると考えています。	『 <b>家族支援・きょうだい支援の充実</b> 』 家族全体やきょうだいへの支援の必要性を踏まえ、行事や情報提 供の在り方について検討を進め、段階的な取組につなげていくこと が必要であると考えています。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 浜松恩地教室			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		～	令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心・安全で丁寧な支援体制	子ども一人ひとりに寄り添い、日常の様子や課題を把握して適切に対応している。	定期的な研修やケースカンファレンスを実施し、個々の対応力や共感力を高める。  保護者や子どもとの信頼関係を深めるコミュニケーション方法の工夫を継続する。
2	多様で充実した活動・プログラム	日常の活動や行事が多彩で、子どもたちが楽しみながら成長できる環境になっている。  学習面のフォローもあり、できることが増える喜びを感じられる。	室内や遊びのスペースを活動内容に応じて柔軟に配置し、安全で快適な環境を維持する。  子ども個々の発達や興味に応じた活動プログラムをさらに工夫し、学習・運動・創作など多面的な成長を支援する。
3	分かりやすい情報発信と保護者との連携	連絡帳やお便り、SNSを通じて活動の様子や連絡事項を丁寧に伝えている。  面談や送迎時などでの報告・相談がしやすく、保護者との共通理解が図られている。	定期的な保護者交流会やオンラインでの情報交換会を実施し、互いに学び合える場を設ける。  イベントや行事に保護者も参加できる機会を増やし、子どもの様子を共有できるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・外部連携の機会の限定	施設運営上、日常の活動が中心となるため、外部施設や地域行事との連携の時間が確保しにくい。  職員の配置や安全管理の観点から、外部活動に制約がある場合がある。	児童館や地域施設、専門機関との交流プログラムを増やし、子どもが多様な体験をできるようにする。  地域の行事や活動の情報を保護者に共有し、参加のハードルを下げる工夫を行う。
2	施設・活動環境の見学・確認機会の不足	見学機会や活動参観の回数が限られているため、保護者が日常の様子や室内環境を十分に把握できない。  活動内容が日々変動するため、常に保護者に見せることが難しい場合がある。	定期的な見学会や参観日を設け、保護者が日常の様子や環境を確認できる機会を増やす。  活動内容や日常の工夫を写真や動画で共有するなど、遠隔でも子どもの様子が分かる工夫をする。
3	情報共有・説明のさらなる明確化の余地	感染症情報や研修・講座の参加状況など、保護者が知りたい情報を網羅的に伝えきれていない。  活動報告や連絡手段が多様化しており、保護者によって受け取りやすさに差がある。	感染症情報、研修・講座の案内、日々の活動報告を体系的にまとめ、保護者にわかりやすく発信する。  連絡手段（連絡帳、メール、SNSなど）を活用し、保護者の受け取りやすい方法で情報提供する。